

# 僕たちの祭りに

—郷土を愛する心を育てる—

- 1 学年 第7学年〔中期〕  
 2 主題名 郷土を愛する心〔4－(8)〕  
 3 ねらい 清盛祭を守り続けてきた坪井さんの気持ちを考えることを通して、郷土の伝統・文化を受け継ぎ、その発展に努めようとする態度を育てる。  
 4 資料名 「僕たちの祭りに」  
 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 郷土の有名なものについて自由に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音戸の瀬戸</li> <li>音戸の舟唄</li> <li>音戸ちりめん</li> <li>音戸大橋</li> <li>清盛祭</li> <li>もぶり飯</li> <li>渡船</li> </ul>	○ 事前に意識調査をしておく。
展開	2 資料「僕たちの祭りに」を読んで話し合う。 ○ 坪井さんから怒られてしまった時、どんな気持ちになったのでしょうか。 ○ 僕は、なぜ久しぶりに練習に参加したのでしょうか。 ○ どうして、清盛祭は大切にされ、ここまで続けられているのでしょうか。 ◎ 健二は、なぜ「清盛祭は僕たちの祭りだ。」と思ったのでしょうか。 3 ゲストティーチャーの話聞き、郷土への思いを話し合う。 ○ 話を聞き、自分の郷土への思いを見つけてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕方なく行っているのに何で怒るの。</li> <li>叱られるから辛い。</li> <li>練習も大変で、ますますやる気がなくなった。</li> <li>いかなかったら、気まずい。</li> <li>もう一度やってみよう。</li> <li>みんなから喜ばれるから。</li> <li>地域の伝統行事だから大切にしていけないといけない。</li> <li>先人の努力を途絶えさせずに、若い人に伝えていきたい。</li> <li>地域のために頑張ろうと思ったから。</li> <li>祭りが故郷を一つにすることができるなんてすごいと思ったから。</li> <li>自分たちが祭りを、発展させていかなければならないと思ったから。</li> <li>自分も、音戸の舟唄をやってみよう。</li> <li>自分の故郷を大事にしていきたい。</li> <li>伝統を受け継ぐことは難しいけど、それを受け継いでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健二のマイナス方向への気持ちを理解させる。</li> <li>○ 健二の気持ちの変化を明確にしていくために資料を分割提示する。</li> <li>○ 清盛祭が続けられていることを通して、先人の努力に気付かせたい。</li> <li>○ 僕の気持ちが変わった理由を指導者の坪井さんの言葉から考え、深めていくことで、価値に気付かせる。</li> <li>○ 伝統文化を継承し、活動されている方の話を聞くことで、郷土に対する思いを深めさせる。</li> </ul>
終末	5 授業の感想を書き、自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統文化はたくさんあるなあ。</li> <li>地域への思いが込められているなあ。</li> <li>親や地域の人々の愛情をしっかりと受け止め、地域を大切に、生きていこう。</li> </ul>	○ 「心のノート」P122に感想を書かせることにより、生活につなげることができるようにする。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

全国的に都市化、過疎化等が進む中、郷土に対する愛着や郷土意識の希薄化を懸念する声がよく聞かれる。子どもたちも自分たちの郷土にすばらしい伝統と文化があることやそれらは先人や高齢者たちの努力の上に成り立っていることに気付いていない場合も少なくない。

そこで、郷土の発展に尽くした先人や地域の人々の取組に触れさせることによって、郷土を愛し、郷土の発展に貢献していこうとする態度を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 体験活動及び各教科領域等との関連

総合的な学習の時間等の学習との関連を図ることにより、より内面に根ざした道徳性の育成を図りたい。

#### イ 発問構成の工夫

「清盛祭」への参加経験のある生徒の発言を生かしながら、指導者である坪井さんの郷土への思いを知り、「なぜ『清盛祭』が大切にされ、今まで続いてきているのか。」について考えさせ、中心発問につなげることで、ねらいにせまらせたい。さらに、坪井さんをはじめ郷土の文化と伝統を大切にしてきた人の思いを知ることを通して、郷土を大切にし、その発展に努めようとする意欲を高めたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

音戸町の有名なものを出し合うことで、郷土の好きなところをお互いが知り合うこと等により、資料への興味・関心をもたせたい。

#### イ 展開の工夫

主人公が、祭りの指導者の郷土の伝統や文化を大切にし、郷土の発展に尽くそうとする生き方を知り、自分も伝統文化を受け継いでいこうと決心する場面を中心発問としたい。

また、自分の考えをまとめるために書く活動を取り入れ、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を高めたい。

小集団による話し合いなどを取り入れ、さらに自分の考えを深めていく展開も考えられる。

#### ウ ゲストティーチャー活用の工夫

展開後段において、地域の伝統を守り続けているゲストティーチャーに話を聞くとともに、その話に対する生徒の思いを交流させることでねらいとする価値にせまらせたい。

#### エ 終末の工夫

授業の感想を「心のノート」等にかかせることにより、今後の生活の中で伝統・文化を受け継いでいこうとする意欲をもたせたい。